

平成29年度 病害虫発生予察注意報 第1号

平成29年5月31日
栃木県農業環境指導センター

作物名 : 水稲

病害虫名 : イネ縞葉枯病 (ヒメトビウンカ媒介)

- 1 発生予想 発生量 多い
- 2 発生地域 県中南地域
- 3 注意報発表の根拠

平成29年5月中旬～下旬にヒメトビウンカ第1世代幼虫を採集し、イネ縞葉枯ウイルスの保毒状況を調査した。その結果、保毒虫率は県中部6.5%、県南部7.7%と高い状態にあり(表1)、保毒虫率が10%を超える地点が複数認められた(最大13.5%)。

表1 ヒメトビウンカ第1世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率(%)

地域名	H24	H25	H26	H27	H28	H29
県北部	1.4	0.9	1.4	3.8	4.2	2.3
県中部	1.8	3.6	10.6	10.0	8.3	6.5
県南部	2.6	6.7	9.2	8.5	7.1	7.7
県平均	2.3	5.3	8.3	8.2	6.8	6.3



ゆうれい症状



穂の出すくみ

写真 イネ縞葉枯病の病徴

4 防除対策

(1) 移植前の対策：普通植栽培

普通植栽培ではチョウ目害虫の被害も懸念されるため、ウンカ類・チョウ目害虫の両方に登録のある箱施用剤を使用する（表2）。

表2 稲（箱育苗）のウンカ類・チョウ目害虫に登録のある主な薬剤（平成29年5月26日現在）

農薬名	希釈倍数 又は使用量	使用時期	本剤の 使用回数	成分	RAC コード
●殺虫剤					
ワンリードSP箱粒剤 〈ウンカ類, イネトムシ, コメイチュウ, フタホビコヤカ, コブノメカガ〉	育苗箱(30×60×3cm、使用 土壌約5L)1箱 当り50g	は種前	1回	クロチアニジン	I : 4A
		は種時(覆土 前)～移植当日		スピネトラム	I : 5
フェルテラチェス箱粒剤 〈ウンカ類, コメイチュウ, コブノメカガ, フタホビコヤカ, イネトムシ〉		は種時(覆土 前)～移植当 日	1回	ピメトロジン	I : 9B
				クロラントラニリ プロール	I : 28
●殺虫殺菌剤					
ルーチンアドスピノ箱粒剤 〈ウンカ類, イネトムシ, フタホビコヤカ, コメイチュウ, コブノメカガ〉	育苗箱(30×60×3cm、使用 土壌約5L)1箱 当り50g	は種前	1回	イミダクロプリド	I : 4A
		は種時(覆土 前)～移植当日		スピノサド	I : 5
エバーゴールド箱粒剤 〈ウンカ類, イネトムシ, フタホビコヤカ, コメイチュウ, コブノメカガ〉		は種前 は種時(覆土 前)～移植当日	1回	イソチアニル	F : P3
				イミダクロプリド	I : 4A
				クロラントラニリ プロール	I : 28
				イソチアニル	F : P3
				ペンフルフェン	F : 7

注1：表中の **黄色** はウンカ類に有効な殺虫成分 **緑色** はチョウ目害虫に有効な殺虫成分

注2：対象害虫はウンカ類・チョウ目のみ抜粋

注3：RACコードが同一のものは作用点が同じなので連用を避ける。

(2) 本田での対策：早植・普通植栽培

各地域でのヒメトビウンカの発生状況に合わせ、地域ぐるみで本田での薬剤防除を行う。なお、箱施用剤を使用した場合は、同一系統薬剤の連用を避ける（表3）。

また、抵抗性品種もウイルスの獲得源になる可能性があるため、罹病性品種と同様に防除する。

表3 稲のウンカ類に登録のある主な薬剤（平成29年5月26日現在）

農薬名	希釈倍数 又は使用量	使用時期	本剤の 使用回数	成分	RAC コード
●粒剤					
スタークル豆つぶ	250～500g/10a	収穫7日前まで	3回以内	ジノテフラン	I : 4A
ダントツ粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで	3回以内	クロチアニジン	
●液剤					
スタークル液剤10	1000倍	収穫7日前まで	3回以内	ジノテフラン	I : 4A
スタークルメイト液剤					
ダントツ水溶剤	4000倍	収穫7日前まで	3回以内	クロチアニジン	
MR. ジョーカーEW	2000倍	収穫14日前ま	2回以内	シラフルオフエン	I : 3A
トレボンEW	1000倍	収穫14日前ま	3回以内	エトフェンプロックス	

注1：RACコードが同一のものは作用点が同じなので連用を避ける。

詳細は、農業環境指導センター（TEL028-626-3086）までお問合せください。

病害虫情報発表表のお知らせは「農政部ツイッター(@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ (<http://www.jpnpn.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。